

3年道徳実践事例 阿久根市立鶴川内小学校 教諭 吉岡 智美			
単元名	「じぶんの考えを伝えよう」 1 - (1) 節度・節制・自立	本時	あらすじ...たかしに忘れ物を貸して欲しいと頼まれるひろみ。「困るから、だめだっていえばよかったのに。」とさゆりにいわれるが。
目標	自分の考えをはっきりと伝えるとともに、よく考えて行動することについて考えることができる。		
	おもな学習活動	指導上の留意点(カウンセリングの視点)	
導入 7分	<p>1. 自分の気持ちをきちんと伝えられなくて困ったのは、どんな時か考える。</p> <p>2. めあてを考える。(学習問題)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>じぶんの考えをうまく相手につたえるには、どんなことに注意すればいいだろう。</p> </div>	<p>役割演技を行い、相手に対してどんな態度をとると、傷つけてしまうのか、また、気持ちよくなるのか、考えさせる。</p> <p>・「昼から遊ぼう！」</p> <p>「うーん」(はっきりしない返事)</p> <p>「いやだ」(攻撃的な返事)</p> <p>「約束があるから、遊べない」(理由のある返事)</p> <p>生活体験を想起させ、興味付け、価値への方向付けをしていく。</p> <p>児童の言葉を使って、めあてを表記する。(自己決定感の高揚)</p>	
展開 18分	<p>3. 「じぶんの考えをつたえよう」を読み、ひろみがとるべきだった態度について考える。</p> <p>たかしに「ぜんぶ、わすれちゃったんだ。だから、かしてよ。」と言われた時、ひろみはどんな気持ちだっただろう。</p> <p>「じぶんの考えを、ちゃんと相手に伝えなくちゃ」とさゆりに言われたとき、ひろみは、どんなことを考えただろう。</p> <p>の中を考え、会話のやりとりをしてみよう。</p>	<p>たかしのいいなりになってしまう、ひろみの気持ちを考えさせる。(受容、共感的態度)</p> <p>たかしに貸すことによって、ひろみはどうなるのかということを考えさせ、節度を持って行動することの大切さに気付かせる。(受容、共感的態度)</p> <p>考えを伝えようと思うが、なかなか実行に移せないさゆりの迷いを共感させる。(受容、共感的態度)</p> <p>の中にいれるときには、「なぜか」という理由をきちんと伝えられるように配慮する。(受容、共感的態度)</p>	
13分	<p>4. じぶんの考えをつたえる練習をする。(ソーシャルスキルトレーニング『上手な断り方』)</p> <p>ア誘う人、 イ断る人、 ウ2人を見る人</p>	<p>仲良しであっても、言うべきことは、言うことの大切さを理解させる。</p> <p>「一緒に遊ぶ約束をしていたが、おばあちゃんの入院で病院にいかなくてはならなくなった。」ということ想定し、ソーシャルスキルトレーニングをさせる。(受容、共感的態度)</p>	
終末 7分	<p>(まとめ)</p> <p>5. 心のノートP40で、ふきだしを入れる。</p>	<p>ふきだしを書き込むことで、人の心を感じる力を試させる。(自己肯定感の高揚、明確化)</p> <p>(評価)自分の考えをはっきりと伝える大切さや、よく考えて行動することについて考えることができたか。</p>	
実践の考察	<p>導入の段階で、役割演技を入れたことで、生活体験を想起させることができ、スムーズに授業に入ることができた。展開段階で、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、「自分だったらこんなふうに言うだろう。」と練習したことで、お互いの主張と理由を認めることができた。この日の日記には、上手な断り方について考えたことを書かせたが、断り方のコツは理解できたようだった。しかし、相手の気持ちを考えるまでにはいたっていないのが現状だ。この道徳の授業では、ソーシャルスキルトレーニングを導入で取り入れるのも一つの方法であると思った。セミナー受講後は、フルーツバスケットなどの構成的グループエンカウンターエクササイズも積極的に取り入れ、温かい雰囲気作りも進めている。</p>		

